

死亡診断書（死体検案書）

この死亡診断書（死体検案書）は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。楷書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏名			女	生年月日	昭和 年 月 日 (時 分) 生まれてから30日以内に死亡したときは生まれた時刻も書いてください
死亡したとき	令和 年 月 日 時 分				
死亡したところ 及びその種別	死亡したところの種別	(右枠記載のうち)		1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他	
	死亡したところ				
	(死亡したところの種別1～5) 施設の名称	()			
死亡の原因	I	(ア)直接死因	急性硬膜下血腫		約37時間半(推定)
		(イ)(ア)の原因	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例:1年3か月、5時間20分)		
		(ウ)(イ)の原因			
		(エ)(ウ)の原因			
	II	直接には死因に関係しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	無	部位及び主要所見		手術年月日	令和 年 月 日
	解剖	無	主要所見		
死因の種類	(右枠記載のうち)		1 病死及び自然死		
	3 転倒・転落		不慮の外因死 { 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焰による傷害 窒息 7 中毒 8 その他 } 外因死 その他及び不詳の外因死 (9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因) 12 不詳の死		
外因死の 追加事項	傷害が発生したとき	令和 年 月 日 時 分		傷害が発生したところ	大阪府
	傷害が発生したところの種別	(右枠記載のうち)	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他		
	◆伝聞又は推定情報の場合でも書いてください 手段及び状況 床に転倒したと思われる。				
生後1年未満で 病死した場合の 追加事項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別 1単胎 2多胎 (子中第 子)	妊娠週数	満 週
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状		母の生年月日		前回までの妊娠の結果
	1無 2有		3不詳 昭和 年 月 日 平成		出生児 人胎 死産児 人胎 (妊娠満22週以後に限る)
その他特に付言すべきことがら 自己転倒を繰り返している。右眼外側に打撲症。救急搬送先病院のCTにて右慢性兼急性硬膜下血腫、脳腫脹を認める。					
上記のとおり検案する		検案年月日	令和 年 月 日		
		本検案書発行年月日	令和 年 月 日		
医師			印		

死亡診断書（死体検案書）

この死亡診断書（死体検案書）は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。楷書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏 名	女		生年月日	昭和 年 月 日 () 時 分 生まれてから30日以内に死亡したときは生まれた時刻も書いてください	
死亡したとき	令和 年 月 日 時 分				
死亡したところ 及びその種別	死亡したところの種別	(右枠記載のうち) 1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他			
	死亡したところ				
	(死亡したところの種別1～5) 施 設 の 名 称	()			
死 亡 の 原 因 ◆Ⅰ欄、Ⅱ欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆Ⅰ欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆Ⅰ欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	Ⅰ	(ア)直接死因	慢性硬膜下血腫内急性出血	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
		(イ)(ア)の原因			
		(ウ)(イ)の原因			
		(エ)(ウ)の原因			
	Ⅱ	直接には死因に関係しないがⅠ欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	無	部位及び主要所見	手術年月日	令和 年 月 日	
解剖	無	主要所見			
死 因 の 種 類	(右枠記載のうち)		1 病死及び自然死		
	3 転倒・転落		不慮の外因死 } 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火気による傷害 外因死 } 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 (9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因) 12 不詳の死		
外 因 死 の 追 加 事 項 ◆伝聞又は推定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	令和 年 月 日 時 分		傷害が発生したところ	
	傷害が発生したところの種別	(右枠記載のうち) 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 (老人ホーム)		大阪府	
	手段及び状況	自己転倒によって生じた慢性硬膜下出血内に急性出血したと思われる。			
生後1年未満で 病死した場合の 追 加 事 項	出生時体重	単胎・多胎の別 1単胎 2多胎 (子中第 子)	妊娠週数		
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状	母の生年月日	前回までの妊娠の結果		
	1無 2有	昭和 年 月 日 平成	出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)		
その他特に付言すべきことがら 転倒を繰り返していた。救急搬送先病院で撮影されたCTより判断した。脳腫脹、中心線偏位を伴う。					
上記のとおり検案する		検案年月日	令和 年 月 日		
		本検案書発行年月日	令和 年 月 日		
医 師		印			

死亡診断書（死体検案書）

この死亡診断書（死体検案書）は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。楷書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏名			男	生年月日	昭和	年	月	日	() 時 分
死亡したとき	令和	年	月	日	時	分			
死亡したところ 及びその種別	死亡したところの種別	(右枠記載のうち)		1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他					
	死亡したところ								
	(死亡したところの種別1～5) 施設 の 名 称	()							
死 亡 の 原 因	I	(ア) 直接死因	左血胸兼出血性ショック			発病（発症）又は受傷 から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位 で書いてください ただし、1日未満の 場合は、時、分等の単 位で書いてください （例：1年3か月、5時 間20分）	約4時間		
		(イ)(ア)の原因	左肺動脈損傷				同上		
		(ウ)(イ)の原因							
		(エ)(ウ)の原因							
	II	直接には死因に関係 しないがI欄の傷病 経過に影響を及ぼし た傷病名等							
	手術	有	部位及び主要所見 左開胸手術			手術年月日	令和 年 月 日		
解剖	無	主要所見							
死 因 の 種 類	(右枠記載のうち)		1 病死及び自然死						
	3 転倒・転落		不慮の外因死 } 外因死 { 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焰による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 (9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因) 12 不詳の死						
外 因 死 の 追 加 事 項	傷害が発生した とき	令和 年 月 日 時 分				傷害 が発生 した ところ	大阪府		
	傷害が発生した ところの種別	(右枠記載のうち)		1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他					
	◆伝聞又は推定 情報の場合でも 書いてください								
生後1年未満で 病死した場合の 追 加 事 項	出生時体重		単胎・多胎の別		妊娠週数				
	グラム		1単胎 2多胎 (子中第 子)		満 週				
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状		母の生年月日		前回までの妊娠の結果				
追 加 事 項	1無 2有		3不詳		出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)				
	昭和 月 日 平成								
その他特に付言すべきことがら 救急搬送先病院にて、診断、手術中に死亡したもの。									
上記のとおり検案する									
検案年月日 令和 年 月 日 本検案書発行年月日 令和 年 月 日									
医 師 印									